

崎定 長検

一級 さん

Vol.21

子供の頃が偲ばれる

〜長崎検定を受験して〜

三宅

滋さん

合格率十二・二％。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一言
ありそうです。
さつくばらんに寄稿願いました。

あなたは、どちらのご出身ですか？ 島原ですか？ とよく聞かれる。たしか曾祖父の代に加津佐から長崎の地へ移り住んだと聞き及んでい。私は、長崎で生まれ長崎で育ちました。長崎検定の受験のきっかけは、それだけではなく、長崎の美術工芸、長崎の食文化に、以前から興味があったからです。

某テレビ局の「鑑定団」の走りといわれているイギリスBBCの「西洋アンティーク鑑定会」の影響で、西洋から日本の、更に長崎の美術工芸に心を惹かれ、亀山焼、現川焼の焼き物から、書画では、後長崎三画人と称された守山湘颯、伊東深江、中村陸舟を愛好し、特に長崎螺鈿（青貝細工）の緻密な美しさは魅力あるものがあります。

ここ二十、三十年は骨董品収集に明け暮れていました。最近では、時間を見つけては、旅行へ行くようにしていますが、やはり旅先でも、目が向く物は同じです。中国、韓国では、文化財保護法により持ち出しが厳しく苦慮しており、昨年も、普州半閉櫃（チンジュバンタチ）（金具に特徴があり一見して解る）の持ち出し許可がなかなか得られず、手元に届いた時は、少し大袈裟ではあるが、李朝の美を終生愛した柳宗悦の気持ちがあったよつな気がしました。

少し長くなりましたが、自分自身の趣味からの受験勉強であったかもしれません。

第二のきっかけは、仕事から、長崎の伝統料理、伝統野菜に興味を持っていたからです。お正月の雑煮（我が家では、今でも唐人菜を用います）、海鼠、百景昔から美味しかった。今ではとても高くて食べられません。

節分の金頭の煮付け、赤だいこんのお膳、端午の節句には、東灰汁粽、お盆には、迎え団子、送り団子に、鶏肉と冬瓜の煮物、おくんちには、石榴臍、さらさ汁、赤飯に甘酒などなど、私たちの子供の頃には、必ず食卓にのっていたものです。これらの伝統料理を継承するため、長崎市食推進室の協力のもと色々なイベントを企画させていただきました。今後も続けていければと思います。関係者の皆様、諸先生方には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

花見の季節になりますが、この頃になると、祖父は、「カルルスは桜がきれいだった」とよく言っていました。当時「カルルス」とは何のこと？と思っていました。今回の受験で、安田伊太郎の「皆花園」があり、日下義雄知事が数千本の吉野桜を植えた桜の名所であり、温泉場があったこと、更に藤田東三郎の「玉蟬園」の戸町カルルスまであったことがわかりました。

また、我が家のお寺は観音寺であり、市指定天然記念物の大クスは有名ですが、フェートン号事

件後に豊後府内城主松平紀之助の陣所にあてられていたこと、十三代住職鉄窟は、あの春徳寺の鉄翁祖門の南画の弟子であり、十四代素窟とわかり、今回縁あって、二人の掛け軸を手に入れることができました。なお一層、勉強することを自強されました。

「中川」（なかご）の地に生まれたため、子供の頃の活動範囲は、鳴滝、七面山、城古址、古橋（中川橋）を通り一ノ瀬橋まで、毎日のように遊んだ丸川公園、中川八幡神社、勉強するたびに昔の良き時代が偲べれます。今回を機会に昔遊んだ所に行ってみようと思います。子供の頃を思い出すままに。



【プロフィール】
1954年生まれ。57歳。JA勤務。
趣味は骨董収集、旅行、読書。
上の写真は、上海・外灘にて（奥の建物は旧香港上海銀行）